



真言宗 豊山派 佐渡支所だより

第 17 号

令和三年十一月一日 発行
発行所 佐渡市新穂長畝一六三〇東光院中 真言宗豊山派佐渡宗務支所

発行責任者
編集委員長

加藤 龍久
池田 英雅

就任のご挨拶

真言宗豊山派 佐渡宗務支所 支所長 加藤 龍久

令和三年四月、清水寺池田英雅師の後任として佐渡宗務支所長の
大役をおおせつかることになりました。

就任以来、誠に浅学非才ながら支所下各寺院の皆様のご理解とご
支援のもとに、その任に当たらせていただいております。この支所
だよりを発行するにあたり改めて厚くお礼申し上げます。

支所下各寺院が今日まで信仰の拠り所として地域に根ざしてき
たことは、寺院各位のご尽力はもとより、ひとえに檀信徒の皆様
のご理解とご支援によるものであります。ここに深く感謝申し上げま
す。

任期四年を支所役員・協議員の皆様と知恵を出し合って支所の事
業を推進して参りたいと存じます。何卒ご理解・ご協力をお願い申
上げます。

さて、私たちを取り巻く現代社会はよりいっそうの発展・進歩を
遂げ、ますます複雑で多様化し、価値観の変化も顕著です。加えて
昨年から新型コロナウイルス感染症の拡大によって、日常生活が
大きく変化しております。少子高齢化・人口減少社会の現状をさら
にコロナ禍が後押しをして、人と人の関わり方に距離が空き、檀信
徒の皆様と菩提寺の関係がいっそう希薄になっていくことを危惧
しております。



この状況において寺院住職の責務は重大で
あります。佐渡宗務支所ではその責務を重く受
け止め、檀信徒の皆様への期待に応えられるよう
に僧侶の自己研鑽や意識改革に努めて参りた
いと思っております。

誠に微力ではございますが、檀信徒の皆様
の格別のご指導・ご鞭撻を賜りますよう
お願い申し上げます。

仏様のお供え

真言宗豊山派 佐渡宗務支所 支所副長 三國 正純

最近、若い世代に引き継がれた檀家様から質問されたことを一例述
べてみたいと思います。それはお供えについてです。

まず三つ具足(花立て一個、燭台一個、香炉一個)の置き方ですが、向
って左側に花立てを、向って右側に燭台(ロウソク立て)を、その中央に
香炉を置きます。三本の足になつてゐる香炉は、手前の正面に一本の
足がくるように、奥に二本の足が並ぶようにおきます。

香炉にお線香を立てる時は、一人でお参りする際は三本のお線香を
奥側に二本横に並べて立てて、手前に一本立てて逆三角形の形に立てま
す。複数の方が立てる時はこの限りではありません。後の人が立ててや
すいように奥の方から並べて立てましょう。本数も一本でも二本でも
良いでしょう。三本立てる事の意味は、清浄なるお香の煙と香りによ
って、自身の身口意(しん、く、い)の三密を清めることです。

身口意の三密とは、身密(仏様に向かつて手を合わせること)
口密(口に真言、経、法号などを唱えること) 意密(一心に佛様を想うこと)この
行いの事を言い、真言宗で重んじられてゐる

大切な行いです。(三密はもともと真言宗で使う言葉で
感染症対策の3密とは全く異なります)

三つ具足は、(具足は全て揃つてゐるという意味)

お灯明(知恵の徳) お香(精進の徳)、
お花(慈悲の徳)を表します。

お花は毒のあるものや、トゲのあるものは、
お供えしない事。どうしても薔薇をお供えし
たいときは、トゲを落としてお供えして下さい。

お花の少ない季節には密(しきみ)や高野マキ
を用いるのも良いでしょう。



信心深い人に出会いました！…第一段

畑野栗野江の普門院（住職 金子大慶師）の山門脇・道路に面し盛り土をした所に、たくさんのお地藏様、可愛らしいお地藏様が並び立ちます。その風景はしっとりとした心安らぐ、歴史を重ねてきたお寺の雰囲気を出しています。

そのお地藏様お一人お一人に竹筒が設置されて、季節ごとの美しいお花が供えられて見つけました。竹筒は数えたらなんと九十九本ありました。近くのお母さんが、何十年も続けているのだそうです。お花の本数、お花を育てる期間、立て替える時間などを思う時、このお母さんの「尊い善行」にただただ頭が下がるばかりです。



信心深い人に出会いました！…第二段

両津城腰の不動院（住職 中浜尚文師）のお檀家様をご紹介します。この方は毎朝、なんとご夫婦そろってお仏壇の前でお経をお唱えし、もう十五年続けているとお聞きました。

私たちの日々の生活を振り返ってみると、田んぼや畑で米や野菜を作り、会社に勤めて、食事をいただき、掃除や洗濯をし、ゆっくりテレビや新聞を見て、睡眠をとる。およそこんな生活です。人生の営みの中で、お仏壇の前に座ってお経を唱える時間を持っていることは、「心豊かな人生の歩み」だと私は思います。この方は「ご先祖様がいて、そして今自分が生かされている。」ときらりと話してくださいました。

崇敬の念をお持ちの立派な方です。

(R・K)



真言宗豊山派佐渡支所の寺院を訪ねる

佐渡宗務支所には五十九カ寺、住職様は四十人おられます。島内の各地にある寺院は、その地域に深く根ざしており、数百年にわたってお檀家様やご住職のご尽力によって今日に至っております。

佐渡支所の私たち役員は各寺院を訪ねて、これまでのお檀家様のご尽力やご住職のご奮闘やご苦勞をお聞きしたいのです。また、今抱えている諸問題や、それに立ち向かい精魂傾けておられること。地域や寺院の在り方など将来への展望をお聞きしたいのです。そのお話の中から共通の切実な課題が見えてくると思うのです。英知を絞って諸課題に対応していかうではありませんか。

畑野栗野江 慶徳寺

慶徳寺のお嬢様 山本沁章（しんしょう）師と雨に濡れてしっとりとした庭園が私どもを迎えてくれました。沁章師に僧侶になった動機や覚悟をお聞きしました。

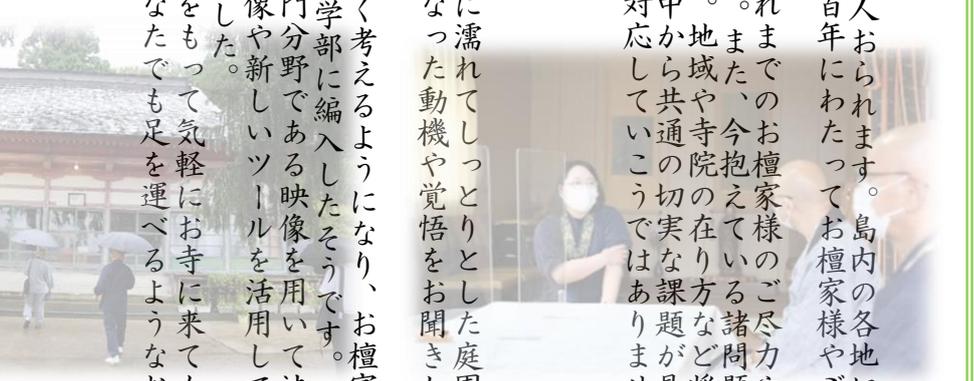
歳を重ねるに連れ、ご自身が育った環境を深く考えるようになり、お檀家様、お寺、ご家族のことを思い大正大学の仏教学部に編入したそうです。

主に仏教の心の整え方に注目し、在学中は専門分野である映像を用いて法要等を紹介してきたそうです。これからも、映像や新しいツールを活用して仏教を紹介していきたいと力強く話してくれました。

お寺や仏教の魅力を紹介して、親しみをもって気軽ににお寺に来てもらえるようにしたい。間口を広げて老若男女どなたでも足を運べるようなお寺にしたいと将来の展望を語ってくれました。

畑野丸山 平泉寺

ご住職の中浜浄純師、奥様、中浜浄太師、総代の山口様、ご家族様の皆様が出迎えてくださいました。平泉寺のご住職に就いてから六十歳の歳月が過ぎたことをお聞きしました。傷んでいたお寺をお檀家の皆様と力を合わせて大修理・修復を手がけてこられたことに敬服の念を抱きます。本堂の大屋根を銅版葺きにする大工事、本堂前の境内を石段・石垣を築き綺麗に整備なされたことなど。次々と伽藍整備に努め、やり遂げてこられたことに成就感を味わっていらっしやることと思います。また、おけき柿作りに精力的に取り組み、柿の園地が五丁歩。佐渡島内で大規模経営だと思えます。摘果・柿の収穫には大勢の人の協力が不可欠です。地域に大きく貢献してこられたと感じました。人が集まり、お酒の席を大切にしてこられた、ご住職のお人柄を



真言宗豊山派佐渡宗務支所 新役員紹介

支所長	支所下 十三番	(新穂長畝)	東光院	加藤龍久
支所副長	支所下 十二番	(金井千種)	観正寺	三國正純
布教長	支所下 一番	(新穂大野)	清水寺	池田英雅
書記	支所下三十五番	(金井新保)	大慶寺副	近藤慶太

仏教青年会会長 支所下 五番 (沢根) 曼荼羅寺 渡部 成樹
(任期：令和五年三月三十一日迄)

仏教婦人会支部長 支所下 四十番 (金井) 多聞寺中 土賀 紀子
(任期：令和四年三月三十一日迄)

ご支援の程、よろしくお願いいたします。

仏教青年会 会長に就任して

支所五番 曼荼羅寺住職 渡部 成樹

お大師さまは、「人は皆、仏心をもっており、それを育て合ってみんなで仏になろう」と教えています。では、「仏心」すなわち仏の御心とは何か？ 仏教聖典の中には、「仏の御心とは大慈悲である」と書かれている部分があります。「慈悲」の「慈」は他者に利益や安楽を与えることを意味とし、「悲」は他者の苦に同情し、その苦を取り除こうとする思いやりを表します。「慈悲」とは安楽を与え、苦を取り除くこと…。

人は生まれたときから、仏様のような美しい心をもっています。それが大人になるにつれ、少しずつ変わっていくのでしょうか。

さて私たち仏教青年会は、仏教精神と宗祖弘法大師(お大師さま)の御心と教えを現代社会に生きるすべての人に伝えること、それを事業を通じて実践することを目的に活動しております。

コロナ禍の中、人は悩み、苦しんでいます。お大師さまの教えである「仏心」を私たちと一緒に育てようではありませんか。



今後とも皆様方のお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

仏青主催海岸清掃の報告

仏教青年会会長 渡部 成樹



新型コロナウィルス感染が収まらなため、青少年研修会が中止となりました。その代わりに活動を、令和三年七月十五日(木)午前八時より佐和田(河原田)海水浴場に於いて、「仏青主催海岸清掃」をボランティアにて行いました。

平日の早朝にもかかわらず、猛暑のなか多くの会員に参加頂きました。お陰様で無事に活動を終えることができ、感謝申し上げます。また、数日前に河原田小学校の児童たちが海岸清掃を同所で行ったと後に知りました。それにもかかわらず、燃やすごみ六袋、燃やさないごみ二袋、資源ごみ一袋のごみが集まりました。佐渡は海に囲まれた美しい島ですが、ごみの多さには残念な気持ちになります。

現代、環境問題の一つとして、海のプラスチックごみが問題となっています。私たち人間が約百年間、便利さを追求してきた結果、今や人間や多くの生物の命をも脅かすものになってしまいました。

周利槃徳(しゆりはんどく)は清掃を続けて悟りを開いたと伝わる仏弟子です。

私たちも、清掃することで見てくるものを、大切にしたいと思います。



寺院探訪

佐渡宗務支所下三十二番

あさひざん 朝日山 けいとくじ 慶徳寺

佐渡市栗野江

慶徳寺中 山本 沁章



本堂 当寺は、旧畑野町栗野江の田畑に囲まれた静かな場所に位置しています。幾度かの焼失に遭い、現存する本堂は昭和五十一年に再建されたもので、ご縁があったいくつかの建物（佐渡高校校舎など）を移築し、接ぎ合わせて建てられました。

当寺の魅力は、四季が感じられる境内（けいだい）です。梅の木からウグイスたちの会話が聞こえる春、木々の若葉がみずみずしい緑色に変わり、爽やかな涼を感じられる夏、赤や黄色に色づく山景が望め、境内のみじも淡い赤から濃い紅色に染まる秋、雪を覆った金北山が一望できる冬。色彩豊かな佐渡では、どこでも見られる風景かもしれないが、静かな場所では心穏やかに時間を過ごしたくなつたときに、慶徳寺にお参りいただくのはいかがでしょうか。

今後、地域の方だけでなく、多くの方が立ち寄りやすくなるお寺となるように、工夫していこうと思案中です。特技の映像制作と、尼僧と呼ばれる女性僧侶であるという特徴を活かした取り組みができればと考えております。とはいえ、勤め人をしながらと二足のわらじを履いておりますので、手の行き届かないところも多々ございます。みなさまの寛大な御心でお赦しいただければ幸いです。

さて、「支所だより」をはじめ、菩提寺から皆様のお手元に届く文書や冊子は色々ありますが、どれもいろいろな世代の様々な立場の僧侶が、皆様に届くように心を寄せて作り上げたものばかりです。読んでみると新たな発見や、心が潤うものも数多くあります。

ぜひ、今後ともご一読ください。



Instagram 慶徳寺Instagram更新中です

@sado_keitokuji



投稿43件
朝日山 慶徳寺
新潟県佐渡島にある真言宗豊山派のお寺です。
境内で感じた四季を載せていきます！



佐渡宗務支所下四十番

にょいざん 如意山 たもんじ 多聞寺

佐渡市平清水

住職 土賀 龍源



本堂と境内

多聞と付く寺院の多くは、少なからず毘沙門天との関わりがあります。

平安の往時、都への疫病や災厄の侵入の防御に、北方の魔除けの地として佐渡に毘沙門天を鎮座させんがため、飛鳥時代に聖徳太子が柳の霊木を得て彫った二体の毘沙門天のうち、末を京都の鞍馬寺に、元を天台の僧、儀真僧都によって延暦十六年（七九七）当地に奉安されました。ここに当寺の毘

沙門天にお仕えする別当としての草創期を垣間見ることが出来ます。

然るに多聞寺のご本尊は不動明王であります。これは当寺の飛地境内地、堂林（どうはやし）山中にある奥の院（堂林観音堂 本尊千手観音）の脇仏と考えられます。天台宗では千手観音を本尊とすると脇仏として不動明王を安置するからです。奥の院（堂林観音堂）の本尊千手観音像は、身の丈七尺（メートル強）の桜の木像彫、神龜元年（七二四）行基作として古文書に記されています。堂林は江戸幕府直轄の御用林（ごよりりん）で、佐渡金山の坑木はこの御林（おはやし）で搬出されていた模様です。

群雄割拠の戦国の世。天正年間に上杉の兵乱により末寺七坊を失います。幾多の寺院がそうであったように天台宗から真言宗に改宗を余儀無くされ、その後万治三年（一六六〇）に至り快祐和尚を第一世として再興に転じます。

時代が下り、またもや受難が到来します。それが明治初年の神仏分離令と廃仏の思想です。境内の六地藏の石仏の首がはねられていることで痕跡が覗え、幸いにも当寺は廃寺を免れることが出来ました。

そして現在、過疎化が進むなか、寺の周辺の空き家には島外からのITタンの移住の人たちが、目立つようになりまし。これらの新住民とお寺との接点を、これからは模索して行く必要があります。



奥の院 堂林千手観音